

SUDDENLY PRESENTATION

企画書の書き方などという本が売れる昨今、ヘンな時代です。プランニングが出来る人がそんなの必要なだろうか。

様式よりもノリを大事にしていきたい、このマガジンが街でみつけた会社やお店に勝手にプレゼンテーションをしていくというコーナーです。

■ 今月のイケニエ ■

バーバー ピエール

① プロローグ

君は、ヘアスタイルをキメるために、どのような店の選び方をしている？ 料金、技術、場所、感じ、いろんな観点があるが、あまりにも欲ばり過ぎて、どっちつかずになっているんじゃないか？ まア騙されたと思って、四条京阪南座前カモガワビル2Fにある、BARBER PIERREに行ってみな。はっきり言って、びびるぞ。店内は、無国籍空間なんだ。ハードな素材で作り上げられ、壁はスペイン、天井はロンドン、鏡は中近東、入口のドアはパリのブティック、窓から見渡す景色は日本を感じさせる。又、小物も最高で、別注誂えの時計や便器、フランスから逆輸入した椅子、テーブルカッターやペン立てまで、男っぽいディティールだがお洒落なのである。その上料金も、祇園にあるが木屋町。(木屋町の方、失礼しました。) 技術は、太秦で17年もやってる店の支店だから、間違いなし。とりあえず、チェック・ポイントだ。

② 余計なプレゼンテーション

内装や調度品からの店のイメージ、そして技術は申し分ない。が、しかし、散髪という行為とそれにまつわる時間と気持をもう少し洗い出してみればどうか。例えば、眠りやすい時間の演出や、眠りたくない人に徹底的に様々な情報を提供するなど、要は最前線でお客様と接する人が機敏に本日のニーズを読み取り、奥行きを持った姿勢で反応するということか。それともう一つはステイタス性を保つためには、経営的にかなりの我慢が必要だろう。それに耐える深さを持つことがステイタス性を保つことの第一歩となる。

③ エピローグ

BARBER PIERREは、今まで美容院や理容室で満足できなかったエピキュリアン達に、殆んどが男性というスタッフ陣が挑んでくれるはずだ。河原町界隈で今三つぐらいの女の子をヒッカケ、つまらん酒を飲むぐらいなら、祇園でカッコエエ男になってみるのもイイんちゃうか。

オープンして、まだ3ヶ月。もう3ヶ月。ぼんぼんはBMWを市営駐車場に入れ、ピンポー人は電車と徒歩で行って頂きたい。どちらにしても、これからの京都の男達のセンスアップは、ここから始まる気がする。

